

「有り難し②～卒業式編～」



【前号からの続き】7月、サマーフェスティバル。夏休みの初日の思い出が、皆さんの青春の1ページに記されました。夏休み、進路指導も本格化。職場見学、面接練習など三年生にとっても暑い夏が始まりました。また進学課外、集中講義、夏期補習や各部活動の練習など、多くの皆さんが汗だくになって頑張っていました。



10月の平尾祭。様々な企画のステージ部門。「食の祭典」のテーマのもと各クラスで話し合って決めた模擬店の歓声が、コロナ禍のうっぷんを発散するかのようにこの平尾の地に響き渡りました。

そして今、皆さんは、自立した一人の社会人として成長し、この学校を巣立とうとしています。三年間の皆さんの君たちの頑張りに、伝統を培ってきた皆さんに心から感謝しています。本当にありがとう。

卒業にあたり、学校長式辞にて、この感謝の気持ちを表す「ありがとう」という言葉を卒業生の皆さんに贈りました。この「ありがとう」という言葉は、もともと「有り難し」が変化したものです。「難し」は、難しいという意味ですから、「有り難し」は「存在することが難しい」。



つまり、「めったにない」という意味です。「これは、めったにないことだ」と、心から喜ぶ言葉が「ありがとう」なのです。

考えてみれば、私たちの周りには、奇跡が満ちあふれています。まず、私たちの存在も「有り難し」。奇跡です。私たち人間は、信じられない、奇跡的な確率の中で存在しています。地球の自転のスピードや向き、気温、空気などあらゆる条件が少しでも違っていたら、我々の存在さえも危ういはずです。これは何か見えない意志が働いている、としか思えません。(次頁へ)



これは何か見えない意志が働いている、としか思えません。(次頁へ)



いかがでしょうか。私たちは、地球という星に生まれ、生きていることにも「ありがとう」と感謝すべきなのです。そして、その奇跡の存在である卒業生の皆さんと先生方が、本校で出会い、共に学習し、走り、



歌い、語り合い、活動した。何もかも、すべてが奇跡なのです。どんなに「ありがとう」といっても、決して言い過ぎることはないのです。

卒業に当たり、感謝の気持ちがあるがままに素直に表してください。ご指導いただいた先生方へ。君たちを支えてくれた友へ。今まで育ててくださった保護者の方へ。いつも温かく見守ってくださった来賓の方々へ。そして、かけがえのない自分自身へ。心を込めて、「ありがとう」という言葉を贈ってください。



皆さんとの出逢いに感謝しています。本当に、卒業生の皆さん、ありがとうございました。

私たちを取り巻く社会は、予想もつかないほど急激に変化し、多様な価値観の中、国内外において解決しなければならない課題も山積しています。このように厳しい状況の中であっても、本校で三年間学び活動して自立した皆さんは、誠実さと優しさを大切にできます。日々、感謝しながら生きていきます。大丈夫です。そして皆さんが培ってきた「優しさ」を全世界に広めていってください。

